

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	第1回シティ・プロモーション委員会	
開催日時	令和6年5月21日（火） 午前10時00分から正午まで	
開催場所	朝霞市役所別館 4階401会議室	
出席者及び欠席者の職・氏名	<p>【出席者】委員6人（亀岡会長、吉田副会長、木本委員、川竹委員、田中委員、村中委員 ※会長、副会長、五十音順） 事務局5人（稲葉市長公室長、西田シティ・プロモーション課長、竹本同課課長補佐兼シティ・プロモーション係長、鈴木同課同係主任、笹篠同課同係主事）</p> <p>【欠席者】齋藤委員</p>	
議題	<p>(1) 各委員の自己紹介 (2) 会長、副会長の選出 (3) シティ・プロモーション方針について (4) 令和5年度シティ・プロモーション活動報告について (5) 令和6年度シティ・プロモーション活動予定について (6) その他</p>	
会議資料	<p>資料1 シティ・プロモーション方針について 資料2 令和5年度シティ・プロモーション活動報告について 資料3 令和6年度シティ・プロモーション活動予定について 資料4 傍聴要領（案）</p>	
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
会議録の確認方法 委員全員による確認		
傍聴者の数	0人	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・西田課長

それでは、定刻となりましたので、令和6年度朝霞市シティ・プロモーション委員会の第1回の会議をはじめます。本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。進行を務めます、シティ・プロモーション課長の西田でございます。

委員をお引き受けいただいた皆さまには、任期の2年の間で、朝霞市のシティ・プロモーションについて、専門的知見から、また市民ならではの目線からご意見をいただきたいと考えているところです。このあと議事の中で、もう少し詳しくご説明してまいります。なお、田中様については少し遅れるとの連絡をいただいております。なお、齋藤様につきましては、本日都合により欠席のご連絡をいただいております。どうぞよろしくお願いたします。初めに、委嘱書の交付を行います。全員のお名前をお呼びいたしますので、その場でご起立いただき、そのままお待ちくださるようお願いいたします。亀岡様。吉田様。木本様。ご欠席ですが齋藤様。川竹様。遅れてこられます田中様。村中様。以上7人を代表いたしまして、川竹様に交付いたします。川竹様、前へお進みください。

～委嘱書交付～

○事務局・西田課長

ご着席ください。なお、川竹様以外の皆さまの委嘱書につきましては、あらかじめ机に置かせていただきましたので、のちほどご確認ください。続きまして、稲葉市長公室長よりご挨拶申し上げます。

○事務局・稲葉市長公室長

皆様こんにちは。この度は、朝霞市シティ・プロモーション委員会委員を快くお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。さて、この委員会は、朝霞市のシティ・プロモーションを推進していくための3つの会議体の中でも、最も中心的かつ重要な役割を担っております。市といたしましては、シティ・プロモーション活動を通じ「暮らしつづけたいまち」の実現を目指して、愛着の醸成による定住促進につながるよう推進してまいります。委員の皆様には、ぜひとも忌憚のないご意見をいただければと思っております。結びに、委員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

○事務局・西田課長

これもちまして委嘱式を終了いたします。議事に入る前に、本日の資料の確認をお願いいたします。まず、本日の次第と令和6年度シティ・プロモーション委員会委員一覧、資料1「議事3シティ・プロモーション方針について」、資料2「議事4令和5年度シティ・プロモーション活動報告について」、資料3「議事5令和6年度シティ・プロモーション活動予定について」、資料4傍聴要

領（案）、以上でございます。すべてお揃いでしょうか。

◎2 議事（1）各委員の自己紹介

それでは、議事に入りたいと思います。会長が選出されるまでの間、稲葉市長公室長が議事の進行を行うこととしたいと思いますが、いかがでしょうか。それではご異議がないようですので、会長が選出されるまでの間、稲葉市長公室長が議事の進行を行うこととします。

○事務局・稲葉市長公室長

それでは、会長が選出されるまで、議長を代行させていただきます。議事に入る前に、皆様に3点ほどお願いとお諮りしたいがございます。1点目は、「発言の際のお願い」について、2点目は、「写真撮影」について、3点目は、「本委員会の公開について」です。事務局から説明をお願いします。

○事務局・竹本課長補佐兼係長

シティ・プロモーション課の竹本からご説明します。まず1点目の発言の際のお願いでございますが、本会議の会議録を作成するに当たり録音をさせていただきます。つきましては、発言をする際は挙手をしていただき、会長に指名されてからご発言くださいますようお願いいたします。発言に際しましては、皆さんの目の前にあるマイクでお話をしていただきたいと思います。使い方ですが、マイクの下電源が入っていると思うのですが、発言する際は上の方の小さい赤ランプを押していただいて緑ランプがつかます。その緑ランプがついた段階で発言の方をお願いします。発言が終わりましたらもう一度押していただいて、赤ランプの方にしていただくようお願い申し上げます。2点目の写真の撮影につきましては、本委員会の様子を写真とともに市のホームページ等に掲載したいと考えております。写真を掲載することにご賛同いただけない方は、会議終了後、事務局にお知らせいただきますようお願いいたします。3点目の本委員会の公開につきましては、本市では、「市政の情報提供及び審議会等の会議開催・公開に関する指針」に基づき、原則として、審議会等の会議を公開することとしております。そこで、事務局におきまして、資料4傍聴要領（案）を事前に用意させていただきましたので、本委員会において要領を決定していただきたいと思います。説明は、以上でございます。

○事務局・稲葉市長公室長

ただいま事務局から説明がありましたが、3点目の会議の公開について、本委員会の審議は原則公開とし、傍聴を許可したいと考えております。何か質問やご意見はございますか。それでは、資料4の傍聴要領（案）のとおり、本委員会の傍聴について決定してよろしいでしょうか。ご異議がないようですので、本会議は原則公開と決定し、傍聴要領に基づいて傍聴を許可することとします。本日、傍聴者はいらっしゃいますか。

○事務局・笹篠主事

傍聴者は今のところいらっしゃいません。

○事務局・稲葉市長公室長

本日、今のところ傍聴者はいらっしゃらないということですが、いらっしゃいましたら、順次入っていただくということになります。

それでは、議事の（１）に入らせていただきます。今回初めて顔を合わせる方もいらっしゃるかと思いますが、皆様に自己紹介をお願いしたいと存じます。令和6年度シティ・プロモーション委員会委員一覧に沿って亀岡委員から順次よろしくお願いたします。

○亀岡委員

株式会社マッシュアップ代表の亀岡でございます。東京でセールスプロモーションの会社を営んでいます。大手企業からベンチャー企業まで、幅広いクライアントのマーケティング戦略やプロモーション企画を手掛けてまいりました。一方で、ソーシャル・デザイン事業を構想し、地域ブランドの開発や関係人口の創出、シティ・プロモーション方針の策定など、地方自治体の本質的な課題解決を支援しています。また、社会活動として事業構想大学院大学で実務家教員としてシティ・プロモーション研究会を担当してきました。このような経験値を活かしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○吉田委員

こんにちは、ヒットマンコーポレーションの吉田です。一番最初は朝霞市の教育委員会で勤務し、それから、広告制作会社、広告代理店に勤め、その後自分で、ブランディングに特化した会社を立ち上げました。現在も会社自体は存続していますが、2014年から朝霞市と関わり10年になりました。「むさしのフロントあさか」というブランドタグラインの開発から、ぼぼたんとか「OKAERI」とか作ってきました。なかなかいい感じになってきていると思うのですが、もう一押し二押し必要なので、皆さんのお知恵を拝借したいと思っておりますので、是非よろしくお願いたします。

○木本委員

みなさんこんにちは、ダマヤ・カンパニー株式会社の木本志帆と申します。私は生まれが和光で、結婚してから朝霞市に住んで、25年になります。このまちで、3人の娘の子育てをさせていただきました。その間に主人と起業をして、まちづくりですとかブランドのスタートアップの支援の会社をやっています。おかげさまで会社の方では、例えば飲食、カフェですとか、ショッピングセンターをリノベーションしたビールの工房ですとか、とんかつ屋さんをリノベーションしたお宿ですとか、色々な形態の事業のスタートアップをさせていただいています。最近では江戸川区の施設で「魔法の文学館」という公共の施設が作られたのですが、半年前にその開館が行われまして、その施設の中のいろいろな管理運営の仕事をさせていただいております。実務的な面と一市民としての面からいろいろ皆様とご相談をさせていただきながら、シティ・プロモーションの魅力を市民の皆様に発信するお手伝いができればと考えています。よろしくお願いたします。

○川竹委員

よろしくお願いたします。川竹と申します。今回、公募市民にご選出させていただきました。私の経歴

からまず紹介させていただきますと、社会人になって8年ちょっとになりまして、一貫してマーケティングやプロモーションというところをこれまで経験してきております。会社としては、現在まで3社経験しております、1社目がIT企業でS I e rのところでは事業主側としてマーケティング活動していたところ、2社目は広告代理店、3社目で別のIT企業にいまして、今そちらでも、商品をどう売っていくかだったりどんな方にニーズがあってどう訴求していくかだったりというところを実務の方で携わらせていただいています。こういった経験を生かし、この朝霞市にも貢献していければなと考えております。私今4年ほど朝霞市に住んでいまして、朝霞市に対する好きな気持ちみたいなものは結構大きいと思っております、朝霞市のご飯やさんを紹介するインスタグラムアカウントだったりを一時期運営していたこともあったりするので、そういったところで、朝霞市に対する情報を一定程度認識しているところがあるので、そういった知識も活かしながら務めていければと思います。よろしく願いいたします。

○田中委員

田中と申します。私は、某IT会社に勤務しております、決済関連のソリューションの営業をしています。わかり易くはP a y事業やクレジット事業あるいは電気やガス、水道の口座振替の登録などの裏方の仕組みを提供しております。プロモーション業務は、過去において同じ会社内で若干ですが携わっておりました。転職希望者向けの自会プロモーションや機関投資家向け広報すなわちIR（インベスターリレーション）活動に留まり、広報活動には特別な知見や経験はございません。とはいえ、私自身、朝霞市には約20年間住んでおり、先ほどの川竹さん同様に愛着があり、都内の方々に朝霞の良さをアピールしたいと思っても材料が見つからずとか近隣の方々と朝霞の魅力を語り合おうとしてもニンジンしか思い至らずという状態から、普段の会話の中でも朝霞をもっとアピールできる様になりたい、あるいはこうした活動を通じて朝霞の良さを周囲の方々に知っていただきたいという思いから、今回委員会に応募しました。どうぞよろしく願いいたします。

○村中委員

村中です。私は、朝霞に住んで8年目になります。私が朝霞に越してきたきっかけが妊娠でした。私は生まれは四国の香川県で、その後東京に10年住み、若者の繁華街で楽しく暮らしたのですが、結婚して子育てしやすいまちを神奈川、東京、千葉、埼玉と1年かけて探し回り、夫とどこに住むか、本当に悩みに悩んで最後にたどり着いたのが朝霞市でした。ちょうど不動産屋さん案内された時期が、黒目川の桜がとても綺麗な時期で、その桜と黒目川の景色を見てここで子育てしたいなと思って、身内も友達も誰もいない中勇気を出して越してきました。今8年目になりますが、長女が今小学生で、次女が保育園の2人の娘を育てています。このまちで娘を成人するまで育てたいと思っていますし、もしかしたら都内に進学したら大学生とか成人しても娘とこのまちでずっと暮らしていけるのではないかなと思ひながら、このまちでずっと住むぞという気持ちでおります。私はこの場にいる者として、この地域に住むお母さんとしてどう感じるか、そういう視点でこの会に参加できたらと

思っています。私は元々はイベント会社に勤務しておりましたが、育児休暇を取り、このまちで子育てを始めたことがきっかけであさかの森のプレーパークに親子で遊びに通うようになりました。このまちでいろんな人に出会えるきっかけが、たくさん生まれました。地域の人に誰も知り合いがいなかったのですが、例えばお店の方、あそこの八百屋が安いよなど世間話をする中で朝霞の情報を色々と教えて貰うことがあり、それがとても嬉しくて楽しかったです。そうして朝霞市で子育てをする中で私は地域活動、市民活動にすごく興味がわきまして、転職をしました。今は遊びの専門家、専門職とするプレーリーダーとして働いており、都内の複数の冒険遊び場であったり、埼玉県の冒険遊び場、朝霞以外にもいろんなところの子育てコミュニティに出入りをしているという私です。どうぞよろしくお願いいたします。

○亀岡委員

最後に、当社のシティ・プロモーションディレクターの菅野でございます。全国の自治体で色々な事業に関わっておりまして知見も深いこともあり、この委員会にも良い影響を与えることができると思いますので参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局・稲葉市長公室長

はい、皆さんありがとうございます。続いて、事務局の職員、お願いします。

○事務局・西田課長

こんにちは、シティ・プロモーション課長の西田と申します。前任の久保田が上下水道部へ異動になりまして、この4月から課長職を拝命いたしました。委員の皆様のご意見、アドバイスをいただきながら、朝霞っていいところだな、住んでよかったな、住みたいなと人々に思っただけのようなプロモーションを展開していければと思っております。皆様のお力添えよろしくお願いいたします。

○事務局・竹本課長補佐兼係長

同じくシティ・プロモーション課課長補佐の竹本です。今年の4月から、総合窓口課からこちらに来ました。勤めて30年目になります。4人の子どもを持つ者として、子育て環境も含めて貢献できればというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局・鈴木主任

シティ・プロモーション課の鈴木と申します。シティ・プロモーションに携わるようになり、日々の何気ない景色が面白く見えるようになってきたなと感じておりまして、業務を通して1人でも多くの方にそういった体験を提供できればと考えております。よろしくお願いいたします。

○事務局・笹篠主事

シティ・プロモーション課の笹篠です。私は今年でシティ・プロモーション課2年目になりまして、昨年は朝霞の良さや素晴らしさ、魅力をたくさん知ることができました。今年もまた、皆様のお力をお借りしながら朝霞の魅力を様々な人に発信できるように尽力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

◎3 議事(2) 会長、副会長の選出

○事務局・稲葉市長公室長

続きまして、議事の(2)について、会長、副会長の選出を行います。朝霞市シティ・プロモーション委員会条例の規定により、会長は、委員の互選によって定めることとなっております。どなたかからのご推薦等はありませんか。では、木本委員お願いします。

○木本委員

木本です。会長職ですが、私からは株式会社マッシュアップ代表取締役の亀岡勇人先生を推薦させていただきたいと思います。地域ブランドの発見や開発、シティ・プロモーションの方針策定など、これまでも地域や自治体を支援されて、シティ・プロモーションに精通しているお方であります。委員会の会長に適任であると思いますが、皆さんいかがでしょうか。

○事務局・稲葉市長公室長

ありがとうございます。只今、亀岡委員を会長にご推薦いただきましたが、ご異議ございませんか。それでは、ご異議がないようですので、当委員会の会長は、亀岡委員にお願いしたいと存じます。亀岡委員、お引き受けいただけますでしょうか。

○亀岡委員

はい、承知しました。一生懸命がんばります。

○事務局・稲葉市長公室長

ありがとうございます。それでは、会長が決まりましたので、亀岡委員、会長席の方へお願いします。ここから先の進行は、会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○亀岡会長

只今シティ・プロモーション委員会の会長に選出いただきました、亀岡でございます。皆さんのご協力により会議を円滑に進めていきたいと考えておりますので、何卒よろしく願いいたします。

続いて副会長の選出でございますが、朝霞市シティ・プロモーション委員会条例の規定により、副会長は委員の互選によって定めるということになっております。どなたかからの推薦等はありませんでしょうか。それでは、私から意見を述べてもよろしいでしょうか。シティ・プロモーションに関する知見をたくさんお持ちであり、これまで朝霞市の広報を支援されてこられた実績をお持ちの吉田委員にお願いするのがよろしいかと思うのですが、皆様いかがでしょうか。ご異議がないようですので、当委員会の副会長は、吉田委員にお願いしたいと存じます。吉田委員、お引き受けいただけますでしょうか、よろしく願いいたします。

○吉田委員

微力ですがよろしく願いいたします。

○亀岡会長

ありがとうございます。それでは、吉田委員、副会長席へご移動願います。

○吉田副会長

会長が冷静で、私は冷静と情熱のあいだで、うまく運営できればいいかなと思います。どちらかというどひっかきまわして議論を引きずり出すタイプなので、暴走しかけた時は止めてください。その代わり、先ほど市長公室長がおっしゃいましたように、忌憚のない意見をなるべく質を高くたくさん出していく方向で動きたいと思いますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

◎4 議事（3）朝霞市シティ・プロモーション方針について

○亀岡委員

ありがとうございます。それでは、議題（3）シティ・プロモーション方針について、傍聴希望者については先ほど決定した傍聴要領に基づき入場を許可しております。会議の途中で傍聴希望者があつた場合は、この傍聴要領に沿って入室を許可することになりますのでご了承ください。それでは議事を進めてまいります。議事3「シティ・プロモーション方針について」、事務局より説明をお願ひいたします。

○事務局・竹本課長補佐兼係長

議事（3）シティ・プロモーション方針についてご説明申し上げます。資料1をご覧ください。まず、朝霞市のシティ・プロモーションの歩みについて簡単にご説明いたします。朝霞市は、東京都心から20km圏内に位置し、武蔵野の面影を残す自然環境や、交通利便性の良さから、微増ではございますが人口の増加が続いてきました。しかし、我が国全体の人口減少の中で、長期的には減少に転じ、少子高齢化が進むと予想されています。そのような中で、選ばれるまちとして、地域独自の魅力的な価値を追求し「朝霞らしさ」を発揮するものとして、平成26年から朝霞ならではの魅力ある地域資源を「シティ・セールス朝霞ブランド」に認定し、市内外へ向けて発信してきました。また、平成29年3月に市制施行50周年を迎え、市の魅力を広く市内外へ知っていただくためのブランドタグライン「むさしのフロントあさか」やキャラクター「ぼぼたん」を創出し、PR動画「OKAERI」等を活用しながらシティ・プロモーションを展開、令和3年には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の射撃競技の会場市ともなり、良質な地域資産の発見・発掘、市の認知度の向上につながる取組を進めてきました。その後、これまでの取組を踏まえながらも、今後は朝霞に暮らす人や暮らしそのものに目を向け、新たな視点で魅力を発見、創造し広く市内外へ発信していくため、この会議の前身の会議体である「シティ・セールス朝霞ブランド検討委員会」におきまして、本市のシティ・プロモーションの方向性についての検討を行い、提言をいただき、令和4年3月に「シティ・プロモーション方針」を策定しました。

資料の2ページをご覧ください。朝霞市シティ・プロモーション方針の中で、朝霞市のシティ・プロモーションの位置づけを「朝霞の日常のクオリティを高め市内外に発信していく活動」としてまいります。また、そうしたシティ・プロモーションを通じて達成したい政策目標を「暮らし続けたいまちの

実現：「選ばれるまちづくりと愛着醸成による定住促進」としてあります。この理想の未来にたどり着くための手段として、「最高の日常を目指して」をテーマに、「朝霞ならではの価値ある日常を発見、創造、共有できるしくみをつくり、まだ朝霞の魅力に気づいていない人に効果的に発信していく」ことを戦略としてあげています。

3 ページのイメージ図をご覧ください。市民の皆さんが朝霞市の日常の魅力に改めて気づき、それを共有しながら市内外へ発信していく取組みを進めることで、市民の愛着の醸成、そして選ばれるまちとなり、定住の促進につなげていくという戦略のもと、朝霞市のシティ・プロモーションを推進していくものです。

4 ページをご覧ください。先に述べた戦略を実現していくため、シティ・プロモーション推進体制として3つの会議体を構成しております。まずは左上の黄色部分から、専門的な知見を持つ方で構成され、助言等を行う「シティ・プロモーション委員会」。右上の青い部分は、市民の有志によるメンバーで構成し、市民目線で魅力の発信を行う朝霞市民プロモーションミーティング。最後に下の緑色部分、市の若手職員で構成され、市が行う様々な事業において連携しプロモーションを推進していく、シティ・プロモーション庁内推進委員会、となります。この3者が連携・協力しながらシティ・プロモーションを推進し、シティ・プロモーション課は、効果的に市内外、メディアへ発信する役目を担っております。次に、5 ページをご覧ください。このシティ・プロモーション委員会は、「選ばれるまちづくりと愛着醸成による定住促進」という朝霞の理想の未来の実現に向け、市のシティ・プロモーションの全体を見渡し、実効的な助言を行っていただく、頭脳的な役割という位置づけをしております。具体的な内容としては、1つ目朝霞市民プロモーションミーティング及びシティ・プロモーション庁内推進委員会の取り組み、シティ・プロモーション課の事業について、専門的な知見から講評と助言を行っていただきます。年度初めの委員会で、各チームへの助言をいただき、年度末に近い委員会ではそれぞれからの活動報告等を受けまして、実施内容の講評と次年度に向けての助言をいただくというサイクルを想定しております。公募委員の川竹様、田中様、村中様には、朝霞市民プロモーションミーティングのメンバーとしても活動を行っていただきますが、本委員会とミーティングとの連携をはかっていただくことをお願いしたいと考えております。2つ目のシティ・セールス朝霞ブランドの選定に関するのですが、こちらについては、認定期限を迎える節目で、選定理由書をご提出いただくもので、令和4年度5年度の委員の皆さまにご議論いただき、令和6年4月1日から新規認定となりました。最後に、6 ページをご覧ください。先に説明したシティ・プロモーション方針に基づいて進める事業の効果を測り、次の企画推進に活かすため、定期的なアンケートの実施を予定しています。初回は令和4年度に実施し、市の情報・魅力発信力、市民の情報収集意欲及び地域への参加意欲の3点について基礎となる数値をとりました。今後は、シティ・プロモーション推進体制の活動の任期2年間に合わせ、2サイクルを回した最後の年、次回は令和7年度にアンケートを実施したいと考えています。以上で、議事3シティ・プロモーション方針についての説明を終わります。

○亀岡会長

ありがとうございます。只今の説明について、何か質問やご意見がございましたらお願いしたいと思えます。はい、田中委員お願いします。

○田中委員

今、表示されている 6 ページのアンケートによって今回の活動の最終的な効果を測定するというのですが、2 回目の実施なので、1 回目にどのような回答があったのかを踏まえることが、今回どれだけ効果があったのかを測る上での起点になると思えます。こうした情報は市のホームページあるいは何かで把握することができますか。

○亀岡委員

ありがとうございます。まずは私の方から回答したいと思います。市のホームページにも公開はされておりまして、これまでは、一般的な市民アンケートは取ってこられたのですが、シティ・プロモーションに関してアンケートを行ったことがありませんでした。それゆえ、現状を知るためにアンケートを実施したわけです。定住に関する意欲度やまちの魅力のあり方について、クロス分析もされています。委員の皆さんには、アンケート資料を提供しますので、まずは現状を把握されてみてはいかがでしょうか。はい、その他どうでしょうか。川竹委員お願いします。

○川竹委員

ご説明ありがとうございます。質問内容ですが、直近で課題と感じているところや現状に対する所感を、感覚程度でいいのでお伺いできたらと思えます。背景としては、先ほどの現状がどうなるのかということ、まずはじっくり理解させていただきたいと思うので、直近で動かなきゃいけない課題があれば把握したいと考えています。

○亀岡会長

中長期的なところで言うと、事務局から説明がありました人口の推計ですが、現在は微増が続いていますが、2040 年を境に減少に転じることが予測されており、本委員会では、そのような社会課題に対して、シティ・プロモーションを通じて何ができるのかという議論が必要です。先ほど、委員の皆さんが自己紹介の際に話された朝霞の魅力を誰にどのように伝えていくことで、共感や信頼を得ていくかということが、重要なテーマであると思っています。また、情報発信の少なさというところも大きな課題であると思えます。はい、吉田副会長お願いします。

○吉田副会長

今会長がおっしゃったように少子高齢化の波っているのは国の経済政策とか財政政策に依存します。こればかりは地方自治体は、特に地方に行けば行くほどお手上げな状態だと思えます。だけど冷静に考えるべきは地方自治体二元代表制というスタイルをとっていて、首長と議会の議員さんが直接選ばれる、そこには少し可能性があって、独自のコミュニティづくりとかまちづくりをすれば、私見ですが大都市圏におけるまちづくりのモデルケースを作れないかなというふうに、私は考えてい

ます。そんなの人口の取り合いじゃないか、結局和光からとって新座からとって志木から奪って、板橋、練馬からも取るみたいなことになってしまうかもしれないのですが、モデルケースがなければ結局何にも始まらないのではと思っています。理想はそういうモデルケースを示せるところまで、朝霞がもう一押し二押しとやっているとすごくいいと思っています。喫緊の課題としてはさっきおっしゃった子育てに適性が高いまちであるということ、プロモーションでは押していくべきところかと考えています。もう一つはさっき村中さんがおっしゃった、埼玉県とか千葉県、神奈川県とかってそこにある朝霞の魅力っていうのは、何か肩の力を抜いて暮らせるみたいな、ふわっとした、それで非常に言語化しづらいものだと思います。そこら辺はどういう風に伝えていくかブランド力とかそういうことだと「何でもない一日のクオリティ」みたいなことや、普段クオリティみたいなことやクオリティオブ普段みたいなこと言ってるのですけども、空気みたいなものなので、そこをどれだけ具現化し、見える化していくかが勝負どころと思っています。ちなみにぼぼたんのあの脱力感っていうのもそこら辺のコンセプトから来ています。私が今気になっているのは、その2点です。

○川竹委員

ありがとうございます。理解しました。

○亀岡会長

木本委員お願いします。

○木本委員

事務局の方々に質問なのですけれども、今回シティ・プロモーション方針を策定した令和3年度から2年サイクルの活動が始まって第2回目のターンかと思います。あの資料を拝見していて、方針ですとか活動内容について全く異論はないのですが、アンケートの実施時期だけが前は1年目だったのを今回は2年目にするというここをずらした意図という、何かあったのでしょうか。

○亀岡会長

事務局お願いします。

○事務局・西田課長

ずらした意図というのが、1年目でやるよりは、2年で一つのを成し遂げるというイメージを持っておりまして、2年目にアンケートをとる、そしてそれを次のサイクルにつなげるという視点から、2年目というかたちで考えております。

○亀岡委員

つまり、初回は令和4年度にアンケートをとっていますが、次回が7年度になるということは、実際の活動は2期分ということによろしいのでしょうか。はい、事務局、お願いします。

○事務局・西田課長

令和4年度は、シティ・プロモーション方針が始まった年ですのでまずそこで基礎数値を取らせていただきました。令和4年度、5年度に活動して成果物が完成しましたので、それを令和6年度に受

け継いで周知し、令和7年度にその数値を取りたいと考えております。

○亀岡会長

令和5年度から6年度の2期が終わった時点で、令和7年度にかけてアンケートを実施するということですね。図案の方は訂正いただければと思います。

○木本委員

会長に補足の説明をいただいた流れですと、2年に1回アンケートは実施するという事でよろしかったですか。

○亀岡会長

はい。

○木本委員

それでしたらサイクルと効果測定がうまく回っていくのではないかなと思っています。はい、ありがとうございます。

○亀岡会長

その他ご意見、ご質問等ございますか。それでは、次の議事へ進みます。

◎5 議事（4）令和5年度シティ・プロモーション活動報告について

○亀岡会長

議事（4）令和5年度シティ・プロモーション活動報告について、事務局から説明をお願いいたします。

○笹篠主事

シティ・プロモーション課の笹篠です。議事4 令和5年度シティ・プロモーション活動報告についてご説明いたします。資料2をご覧ください。朝霞市民プロモーションミーティングとは、市内において様々なまちの魅力について情報交換等を行い、市の魅力発信や市民の愛着醸成につながる活動を行う市民の有志によるチームとなっております。令和5年度は、市民目線で朝霞らしさを市内外に発信するため、個々の行きつけのお店や散策コース、遊び場など、メンバー個々が朝霞での日常をどのように満喫しているかをマップに落とし込み、市ホームページやインスタグラムで発信し、それらをまとめた冊子「わたしの“あさか時間”」を5,000部作成しました。朝霞に住んでいる方や今後、朝霞市に住もうと考えている方に市内での生活を楽しむきっかけづくりとなるような冊子となっております。この冊子は、市公共施設や駅ラック、店舗等へ配架しているほか、市ホームページにおいて、情報発信しています。5月17日の埼玉新聞の記事にも掲載され、より多くの人の手にとりいただけるものと考えております。また、昨年度の委員会で、市ホームページの「わたしの“あさか時間”」の掲載場所をより分かりやすく手軽にアクセスできる環境に整えた方が良いというアドバイスをいただいたことから、サブサイトのトップページから閲覧できるようにサイトの改修を行いました。

た。

次に2ページをご覧ください。シティ・プロモーション庁内推進委員会についてご説明いたします。庁内におけるシティ・プロモーションの推進のため、10名の市の若手職員で組織しております。令和4年度からの2年間の活動を通じて培った柔軟な発想力を用いて、効果的な発信を行うことを目標とし、職員ならではの視点で市のブランドタグライン「むさしのフロントあさか」を表現した写真とコメントを3つのカテゴリーに分けて市のInstagramに投稿する企画「わたしの“むさしのフロントあさか”」について活動しました。まち中華や見晴らしの良い景観、電車のよく見える穴場スポットなど、庁内推進委員がそれぞれ感じる「むさしのフロントあさか」をInstagramで発信しました。

次に3ページをご覧ください。シティ・プロモーション課の活動についてご報告いたします。1つ目は、シティ・セールス朝霞ブランドの更新についてですが、令和6年3月末のブランド認定期間終了に伴い、昨年度の本委員会にて、ブランドの更新について、ご意見等いただき、選定理由書を元に、新たに7つの地域資源を「シティ・セールス朝霞ブランド」に認定しました。旧高橋家住宅、本田美奈子・モニュメント、黒目川、彩夏祭、ニンジン、公園通りとシンボルロードの6点については再認定いたしました。また、今回新たに、まちなかベンチを認定いたしました。これは、市内のいたるところに座れる場所があることは、人々が歩き、憩い、集い、自然に親しむ場となり、まちにゆとりを生み出すことから、市の魅力及び知名度の向上に資するとして、市内のベンチやテラスを認定したものです。今後は、市内外にシティ・セールス朝霞ブランドを発信し、朝霞の魅力として積極的に発信してまいります。次に4ページをご覧ください。市内各駅前の柱巻ラッピングリニューアルについてです。このラッピングは駅を利用する多くの方にとって朝霞に対する愛着や興味・関心を得るきっかけづくりになるほか、メディアへの露出効果を狙い設置いたしました。ラッピングのデザインは、市のブランドタグラインである「むさしのフロントあさか」の持つ、自然の豊かさと都心に近い都会的なイメージを、緑や青のグラデーションで表現し、「いってらっしゃい」「おかえり」など5種類のポーズのぼぼたんがデザインされ、駅を歩きかう人たちをお迎えしています。また、写真をご覧ください。各駅において文字の配置を工夫し2本の柱で様々な角度からでも「むさしのフロントあさか」が見えるよう表現しております。5月11日放送のテレビ埼玉の番組「いまドキッ!埼玉」で「朝霞食いち」についての紹介が行われた際、このように映りました。以上で、令和5年度シティ・プロモーション活動報告について、説明を終わります。

○亀岡会長

ありがとうございます。只今の説明について、何か質問やご意見ございましたら、お願いします。はい、村中委員お願いします。

○村中委員

村中です。「わたしの“あさか時間”」という小冊子、第一印象かわいくておしゃれだなど、クラブ

トっぽいデザインもすごくなんかほっとできるような表紙でいいなと思いながら楽しみながら読みましたが、この制作の過程について簡単にご説明いただければ嬉しいなと思います。

○亀岡会長

前期のシティ・プロモーション委員会の運営メンバーとしての立場から説明いたしますが、先ほどのシティ・プロモーション方針の議論にもありましたとおり、まず、まちの魅力を見つけて記事にすることで市内の人に伝えていくためのインナープロモーションがあり、魅力的な情報を編集し積極的に市外へ発信するアウトプロモーションへとつなげるサイクルが重要になります。当時の朝霞市では、まちの魅力を誰にどのように伝えることで共感してもらうのかというシティ・プロモーションの戦略的な部分が曖昧であり、うまく伝えることができていませんでした。そこで、市民プロモーションミーティングの皆さんが主体的に取り組める施策を検討してもらい、ご自身がどのように朝霞の時間を楽しんでいるのかを記事にすることになりました。散歩で立ち寄ったお店が素敵なことやまちなかベンチから見た風景がとても綺麗だといった朝霞独自の魅力を自分たちの言葉で伝えていくなど、朝霞のシティ・プロモーション方針の「最高の日常を目指して」を実現していくためのアウトプットとして、この冊子が生まれています。

○村中委員

ありがとうございます。

○亀岡会長

吉田副会長お願いします。

○吉田副会長

「わたしの“あさか時間”」は超個人的な価値観をアピールしていくと、割とロコ的な視線で語っていった、行政だと例えばあそこの風呂屋行ってあそこの飲み屋行ってとか書けないので、そこら辺は具体固有名詞を出してやっていただけるあたりが、市民参加をしていただいた強みかなと思っています。提案ですが、例えば同じロゴタイプを使ったコラムみたいなもので、広報で同じような原稿をもっと広く委員会の外で市民全体とかに募集してみる、みたいなチャレンジをしてみたらいかがでしょうか。

○亀岡会長

ありがとうございます。私も少し足りないと感じたのは、朝霞市内の飲食店さんや事業者さんとの連携がなかったところです。例えば大学との研究で新しい特産品やメニュー開発をするなど、学生さんたちを巻き込んだ取り組みもできるのではないかと考えていたので、その思いは新しい委員会の皆さんにも引き継いでいただいて新たに議論を深めてもらえると嬉しいです。川竹委員お願いします。

○川竹委員

私も「わたしの“あさか時間”」について質問をさせていただきたいと思います。こちらは、冊子としてはもう発行していないという認識でよろしいでしょうか。

○亀岡会長

紙媒体として5,000部が発行されて、市役所の関係のあるところに配布済みです。

○川竹委員

ありがとうございます。今伺った背景が、恥ずかしながら私がこちらの冊子を紹介いただくまで知りませんでした。市民の方に向けた冊子だと思うのですが、この冊子の存在自体を知らなかったということがありますので、この5,000部が一体どこに行っているのかっていうのを伺いたいと思いました。

○亀岡会長

ありがとうございます。これまで課題となっていたのが、市民とのタッチポイントが少ないことでした。例えば、朝霞に移住定住しよう検討する人の最初のタッチポイントは不動産会社さんですね。住宅の情報だけではなく、まちに住んでいる人が魅力に感じている情報は不動産屋さんにとってもメリットがあるのでカウンターに冊子を置いてもらうなど、新たなタッチポイントを増やしていく努力をしていただきました。引き続き、紙媒体やWeb媒体を問わず、多くのタッチポイントを強化していくことはシティ・プロモーション委員会の大事なテーマです。

○川竹委員

ありがとうございます。続けて質問をさせていただきたいのですが、この小冊子を配布したことで何か変わったこととか、感じられる点がありましたでしょうか。

○亀岡会長

事務局の方で、何か手応えを感じていることがあればコメントいただけますでしょうか。

○鈴木主任

事務局より回答します。先ほどの、川竹委員に届いてなかったということを申し訳なく思っております。配布場所としましては、5,000部のうち2,500部を配架依頼したところまでございまして、そのうち市の公共施設と各駅のラックの方に重きを置き、それぞれ1,000部くらいを置いています。また、カインズ朝霞店さんにご協力いただいて200部を置いています。駅のラックは、置くと数日で割となくなってしまうような状況でして、まだもしかすると皆様のお手元に行き渡っていないかもしれません。今後その他の店舗や不動産会社も含めて配架を依頼し、皆様に届くように努力していきたいと考えております。反響についてですが、3月末に発行し4月から配り始めてるんですが、現状反響は届いておりません。この「わたしの“あさか時間”」は元々冊子になる前に、チラシ状のもので発信をしております、それを市役所のカウンターで手にとっていただいた方とお話した限りでは興味持っていただいたと感じておりますが、メールや電話での反響については今のところいただいておりません。

○川竹委員

ありがとうございます。理解いたしました。

○亀岡会長

現在、冊子の設置が進んでいる段階とのことで「わたしの“あさか時間”」の認知も高まっていくと思います。また、今期のシティ・プロモーション委員会の皆さんには、新しい施策でさらに魅力を上乘せしていただきたいと思います。先ほど、木本委員からご指摘のあったアンケートによって朝霞市のシティ・プロモーションについて認知が上がっているのか、どのようにして朝霞市の魅力を知ったのかなど、活動の成果を定量化するべきだと思います。副会長お願いします。

○吉田副会長

ご質問にも多分関係すると思うのですが、タッチポイントとかいわゆるメディアでオウンメディアとかあるじゃないですか。朝霞市で言えば、オウンメディアの代表的な例は、広報紙、それから、ホームページがあります。自治体のブランディングとか広報で一番辛いのが、マスメディアを使うほど潤沢な予算っていうのが一般的にはないことなんです。流山市辺りは、交通広告を打ったりしてお金を使っています。広告とかそちら関係にもいらっしゃれば多分お分かりだと思うのですが、電車のA3の横使い中吊り広告などは、1か月で300万とかメディア費を使っています。潤沢な予算っていうのは、一般的にはないと思います。それで、シティ・プロモーション課の仕事の日常っていうか辛いところとか、楽しいところを言いますとお金をかけずにどうメディアとかインフルエンサーにタダ乗りしていくかっていうのが課題になってきます。

ここ3年から4年くらいで、朝霞市のメディアへの露出っていうのは増えているという風を感じてませんか。それは何を行ったかという、そのメディアとか買えないので、映像編集機を備品として買ってもらい、ロケーションサービスの情報をシティ・プロモーションから流してメディアが食いついてきてドラマの舞台になって、実質効果何千万円みたいなことを地道に地味にやってきました。おそらく自治体のプロモーションだとよほど潤沢なその財源がない限りは、メディアを使わないで、パブリシティでどうやって広げていくかというのは宿命の課題だと思います。ここで、先ほど報告があったシティプロの活動報告の2のところまで柱巻きてありますが、柱巻きの最後のところに、メディアへ露出して、テレビ埼玉、埼玉限定の映像ではあるのですが、そういうところに露出するとそういうものの媒体効果を狙ってゲリラ戦を繰り広げているっていうのがシティ・プロモーション課の職員の現在であり面白くも辛いところかなという風に考えています。全体理解からすると、どうもそこら辺の作戦、すごくいいコンテンツを仕掛けておくとか、当初は、現課長が異動でこちらにいらっしゃった時に、「タダ乗り大作戦」みたいなことを冗談で、「小判鮫大作戦」みたいなこと言っていたのですが、よくマーケティング用語だとフリーライド戦略みたいなことが根底にあります。だから外部へ出るのが非常に難しいですね。特に市内だと、広報で一応カバーできるのですが、市外へ出していくのが非常に難しいので、是非皆さんのアイデアをいただきたいところです。

○亀岡会長

ありがとうございます。千葉県流山市のマーケティング課とお付き合いがあるのですが、流山市の

場合は、まちのブランディングやシティ・プロモーションに対して予算を確保し、プロポーザル方式でメディア効果の高いサプライヤーを選定するなど、目的と手段を明確にした広告戦略を展開しています。一方で、流山市内で活躍している市民や市民団体の方たちが活動しやすい拠点づくりや市民同士のつながりを活性化するコミュニティをサポートするなど、実はあまりお金をかけない取り組みも積極的に行っています。このような取り組みはシティ・プロモーション課の支える仕組みづくりと共通する部分もあるので、朝霞市でも参考にしてもらえればと思います。

私から村中委員に質問ですが、これまで千葉、神奈川、埼玉など、いろいろな地域を見てこられて最終的には朝霞への移住を決めたとのことですが、どのような魅力や価値が対象者のニーズを満たしているのか良くわからないという現状があります。一方で、転出される方に関しても正確な理由が分からないケースが多いと思います。このように移住された方や転出する方のインサイトを分析することができれば、効果的なシティ・プロモーションが行えると思いますので、村中委員の場合はどのようなことが決定要因だったのか教えてください。

○村中委員

質問をいただけてうれしいです。私の場合、超個人的なことにはなりますが、子育てをするためにまちを探しはじめて、交通の利便性、住宅の広さや価格、周辺環境、あと学校など、本当にいろいろ調べながらいろんなまちの不動産屋を頼って、人気の流山も見に行きました。流山は駅前も綺麗で緑もあり、田んぼも多くてすごく住みやすいなと思ったのですが、私たち若い夫婦だったので、28、9のときの若い夫婦がどこまでお金を出せるか、正直敷居が高く感じました。また、都心に通勤可能、子育てするので保育園に預けて通勤し、すぐ帰ってこられてというと、東京、千葉、神奈川の3県だと、若くて当時貯金も多くなかった私たちには、あまり選択肢が無かったです。でも都心に近いことは必須の条件で、子育てしやすい住宅にも住みたい。田舎で育っているので、のびのびと自然の中で子育てをしたい。例えば子どもたちが夜泣いたりしても近隣にご迷惑がかからない住環境や地域環境っていうのを本当に一番に考えた結果、朝霞市に丁度良く条件に合う物件が見つかり越してきました。朝霞市に物件を見に来た時に、まずロケーションがよかったですね。電車に乗ってくるときに、和光から朝霞台駅に向かうまでの電車の窓からの景色がすごくよかったです。これなんだろうっていう公園がある、電車から見る複数の公園に川に、それで駅前に行ったらそこそこチェーン店もあって、第一印象がすごくよかったです。朝霞市を調べてきたわけではなくて、不動産屋さんに朝霞市っていうところがあるよって、予算ではこのくらいのまちだよ、とお聞きして、じゃあ朝霞っていうところに行ってみようかとなりました。来てみた結果景観がよかったっていうのがまずひとつの決め手になったのと、あとは、学校も多かったです。ネットで調べると小学校の人数とかもでてきて、子どもが多いな、なんなら教室足りないくらいだよと、そうなるとうちのお母さんたちが多いんだなという情報が出てきて安心しました。子どもが多いってことはもしかしたら子育てしやすかったり、力を入れてるかもしれないなど。市の情報もかなり読み漁りましたし保育園問題も、当時朝霞は

待機児童が多い状況だったと思うのですが、でも自分と似たような親御さんたちがいっぱいいるということだと思ったので、自分向けのまちかもしれないと思いました。あとは、最初本当に埼玉が候補の中になくて、住むなら千葉か神奈川か東京だよなって、まさか埼玉に住むとは思っていなかったのですが、住んでみると、東京にも千葉にも神奈川にも、どこにも出やすくてっていうほんとに便利なまちだし、津波も来ないし、すごくいいまちだと思っています。少し長くなってしまったのですが、転出しようかなと思った時期がありました。コロナ禍でお祭りもすごくなくなったり、こどもの行事もなくなって、友達、ママ友と遊ぶとか外食もしづらくなったときに、もう苦しくなって。会社は、もうどこのまちにも住んでいいよ、お金も出してあげるし、リモートワークなので全国沖縄でもどこでもいいよって。そしたら夫が避暑地とか、山奥とかに住みたいと言い始めて、私もなんだかコロナ鬱でさみしくなり、子育てのしづらさから、それなら夫婦で、大きな家に住んで、この朝霞と同じ価格で、のびのび暮らしたいと本当に家を査定にまで出したんですけど。私以外にも転出した子が何組かいたのですが、海外に行ったり田舎に行ったり、もっと埼玉の奥、春日部とかあのあたりまで行ったママ友ファミリーもいて、さみしくなってしまったのですが、最終的に踏みとどまったのは地域のコミュニティです。このご近所づきあいは転出先でもう二度とつくりえないかもしれない。やはり相談に乗ってくれる方がご近所さんであったり、大根を差し入れてくれたり、卵食べる？って持ってきてくれたり、首都圏にこんなに近いのにゆるくて温かい田舎っぽさが残ってる朝霞の良さが、一番の転出しない決め手になっています。ありがとうございます。

○ 亀岡会長

ありがとうございます。朝霞の広報誌で特集が組めるぐらい素晴らしい内容だったと思います。このように市民が感じているまちの魅力や何事にも代えがたいコミュニティがあるなど、シティ・プロモーション情報として発信することで、子育てをテーマに移住先を探している人の選択肢として朝霞市が高い順位に来ると思います。このような魅力情報を提供することはシティ・プロモーションの大きな役割だと思います。その他ご意見有りますでしょうか。村中委員お願いします。

○ 村中委員

手短になんですけども、わたしいろんなお母さんたちの話を聞く機会が多く、今子育てしながら働くことへのハードルがやはり高いです。働きたいけど子育てがあるから難しい、例えば自分のやりたいことがあってこういう場所がほしいのに無い、という中で、商店街とか商工会さんとママたちがつながらる機会があったらすごく面白いと思っています。例えば、ヨガとかダンスのインストラクターをされていて、都内でバリバリやっていたよっていうママが朝霞でスクール開きたいけど場所がないことであったり、ネイリストだったりクリエイターだったりスキルのあるママたちってこのまちにほんとに多く暮らしているんですね。でも都内から引っ越してきて、活躍できる場所が市内になくて、困っている。絵画スクールとかこどもむけのスクールをしたくて、でも場所がない。本当にそういうママたちがたくさんいて、もう一緒に会社つくっちゃう？みたいな雑談で毎回盛り上がりつつ終わるん

ですけど。でもそういう場所を欲してる人が本当に多いので、そういう人にわかりやすく、こういう場所借りれるよとか、コワーキングではなくてももう少しスケールの大きな、空き家だったりを気軽に借りられたり、ビジネスとしてお金もしっかり稼げることもできる、とにかく色々な面白いことが朝霞市ではできるみたい！という、そんな支援の取り組みや、地域住民に対しての分かりやすい情報の発信があったらいいのにと、実際地域のママたちが話してたりするので、この場で情報をお伝えしたいと思います。

○亀岡会長

ありがとうございます。木本委員、商工会として何か連携できることはありますか。

○木本委員

村中委員からお話いただいた内容ですとか、今の繋がりたい方々がたくさんいるというご意見から私も考えたんですけども、本当に正直朝霞って10年20年前からすごく魅力的なまちで子育て世帯がたくさんいるまちなんですね。その中で徐々にいろいろなネットワークが育ってきて、地域の子育て支援のNPOですとかあさか子育てネットワークですとかあとはあさかエリアデザイン会議ですとか、色々なまちづくりの団体というのは、もうすでにかんりの活動をされています。人口14万人の中にそういった発信力の強い方というのは、すでにいっちゃって、マーケティング的に言うと14万人の20%ぐらいの方は多分すごく発信力を持っている、やりたいことをこのまちでやりたいという熱意を持った方がいっちゃうはずですよ。ここからは私の意見なんですけれども、例えば今回シティ・プロモーション方針が策定され、初めの2年間のターンの終わったところで、少なくともその20%、3万人ぐらいの方にその2年間の成果を伝えきるような、打ち出をすると、やったことの効果が本当にまちの中に浸透していく、伝えたい方に情報が伝わっていく状態ができてくると思います。正直先ほど「わたしの“あさか時間”」冊子の配布数が5,000部というふうに伺った時に、感想としたら少ないなというふうに、本当に思いました。実際、実費として印刷費だけのことを考えると5,000部刷っても1万部刷っても3万部刷っても実質費用というのはあまり変わらないはずなんです。量を多くすれば多くするほど印刷費は安くなるので、そこで予算が大幅に増減するようなことって全くないと思うので、これからでも、今回この2年サイクルの1年目が始まった今、残りの例えば2万5000人の方に配り切ってしまうようなことをこの機に実行してもいいのではないかなというふうに思いました。補足すると、例えば小中学生が朝霞市には1万人いたり保育園の児童数5,000人いたりするわけですよ。そこに1万5,000部配るだけでも3万人のうちの半分の方にはお渡しできる状況になると思うのでそのあたり、早速実行できるかどうか、具体的に検討いただけないでしょうか。

○亀岡会長

ありがとうございます。副会長お願いします。

○吉田副会長

ぼくも木本さんの意見に賛成で、朝霞市で大きい会議体として第5次総合計画とか「ひとまちしごと」とかっていわゆる上級官庁からの繋がりやの会議体があって、その下っていうとおかしいのですがそれと連携する形でシティ・プロモーション委員会もあるはずだなと。その時に委員会の名前が違うとか、議事録が違うってことはあるでしょう。もちろんその統一感を持ってないといけない、共通する部分っていうのをその上級会議体と持って行かなければならないのですが、会議体の名前が違うってことは別な意見を言い合って調整するっていう、本当は意味があるはずで。そこは表現の問題としてもこの委員会としてその自立性を持ち、多様な会議体への影響力を与えられる会議体のあり方を目指していければいいなと。今木本さんの話で触発されて少し話をしてるのですが、その例えば今日出たような話とかを、よく吹き出しマークとかありますが、しゃべったみたいなのを例えば2年間の集大成として匿名で出せるような形になると、例えば万単位の市民が、見やすいものが生まれてくるかもしれない。可能性としてなんですけど、委員会の正式な報告書という形はそれではまずいと思うのですが、そこら辺の可能性は考えてもいいのかな。もう一つは、先ほどから出ているコミュニティに関しては家族以上サークル未満みたいなのところの集団の大きさ、あと集団が生まれてくるところを大切にできるような、さっき空き家とおっしゃいましたけどなんかそういうものが本当にあるといいですね。そこら辺は、例えばいわゆる空き家問題と昔からある家の改築改装とかカフェ化とかかってカフェにしていくみたい流れみたいなのが生まれてくるとすごくいいかなと。特に朝霞市の場合、本町のこっち側は非常に熱気があるんですよ。だけどそれをまんべんなく朝霞台周辺、三原とか北原方面にも広げていく必要があるのかなっていうふうに考えてます。インフラに関わることは、僕たち言えないんですが、都市計画とかなんとかでその空き家の有効活用みたいなことに上がっていくとすごくいいなっていうふうには思っております。

○亀岡会長

ありがとうございます。コミュニティの話が盛り上がり、大きなテーマに発展しましたね。一旦、村中さんの意見に戻しますと、主婦の自立支援になるような場づくりが重要ではないかという話でしたが、例えば流山市では おおたかの森で年に4回フェスティバルを開催しています。イベントの出展者は主婦の方が中心で、アクセサリー販売やベビーマッサージ、赤ちゃんの足型アートやバルーンアートなど、自身の強みや趣味を活かした事業で参加されています。1ブース数千円の低価格で出店できる仕組みなので、多くの主婦の人たちが参画しており、イベントの成果として会社を起業する方やカフェを運営される方がいるなど、参加者の自立支援にもつながっています。このような情報をシティ・プロモーションとして積極的に発信していることで、イベントへの参加者も増加するなど、グッドサイクルが生まれています。朝霞市でも同じようなイベント等があれば、主婦の皆さんの活躍の場や自立支援が実現できると思います。

○亀岡会長

続いて議事5 令和6年度シティ・プロモーション活動予定について議論を行います。まず令和6年度シティ・プロモーション活動について事務局から説明をお願いしたいと思います。

○事務局・鈴木主任

議事5 令和6年度シティ・プロモーション活動予定についてご説明いたします。資料3の青いスライドの資料をご覧ください。まず朝霞市民プロモーションミーティングはメンバー個人による発信からステップアップし、朝霞の日常の魅力を語り合い発信できるコミュニティにつなげていくことを目標とします。右側のイメージ図の通り、前年度までの2年間では超個人的な視点でメンバーにとっての朝霞の日常の魅力を個々に表現して発信する活動を主に行っていました。昨年度メンバーの方からも交流の場を増やしていきたいという声があったことを踏まえまして、今年度からは個人的な発信を継続しながらメンバー同士でそれぞれが思う朝霞の魅力を語り、発見し、共感し合い、深めていく活動を行っていきたくと考えております。それが2年後にはメンバー以外の市民のコミュニティへとつながり、広がっていくことを期待し、仕掛けを行っていきたくと考えています。具体的な活動案としては昨年度までの活動でテーマとして挙げていたわたしの“あさか時間”を引き続きハッシュタグとして活用し、SNSでメンバーが発信していくほか、市民の方にも広く活用していただけるような取り組みにつなげていきたくと考えています。そして新たな取り組みとして、ミーティングメンバーがチームとして1つのテーマに沿って朝霞の日常の魅力を深掘りし、言語化し、発信する取り組みを行いたくと考えています。ミーティングのメンバーについてはこの委員会で活動の方向性を決めた後、募集を開始したいと考えております。次に2ページをご覧ください。シティ・プロモーション庁内推進委員会ですが、新たな委員を迎えまして前例踏襲を打破し、柔軟な発想を生み出せる会議体として各課と連携しながらシティ・プロモーションを推進し、庁内に浸透させていくことを目指します。具体的な活動案としては、シティ・セールス朝霞ブランドを市内外に発信していくアイデアについて話し合い、ブランドの所管課と連携しながら実現につなげていきます。また市の職員提案制度に向けて企画案を練り、チームとして提出をすることで庁内においてこのチームが認知され、またシティ・プロモーションの視点で考案したアイデアが各課において採用されることを目指していきたくと考えております。3ページをご覧ください。最後にシティ・プロモーション課の活動についてご説明いたします。まず機会を逃さず捉え、これまで作成した様々なコンテンツを市内外に発信していきます。また、新たなアプローチとして、まちの未来の担い手である子どもや学生に対し朝霞に愛着を感じてもらい取り組みを進めていきます。活動案としては、市内外から多くの人を動員するイベントとして、まず彩夏祭のブースでの来場者へのプロモーションを行い、朝霞に興味・関心を持っていただくきっかけに繋げていきます。また、シティ・セールス朝霞ブランドについてのリーフレットを作成し、市内外に朝霞の誇れるブランドを広く発信していきたくと考えています。また、子どもや学生に向けての取り組みとしては、6月に東洋大学朝霞キャンパスの学生の皆さんに朝霞の魅力についてお話をさ

せていただくことが決まっておりますが、自分達からの仕掛けとして、子ども向けの朝霞の魅力お届け講座を作成し、市内の小学校を中心に活用を呼びかけて参りたいと考えております。以上で議事5令和6年度シティ・プロモーション活動予定について説明を終わります。

○亀岡会長

ありがとうございます。ただいまの説明について何か質問、ご意見ございましたら委員の皆様お願いします。はい、田中委員お願いします。

○田中委員

この後の議論の展開としまして、今の話の中で方向性を決めてということがあり、方向性について、この後、今年度どういう活動を行うかという議論をしていくと思いますが、どのような話の展開になってくるのでしょうか。まずそこを踏まえて質問等を考えたいと思います。

○亀岡会長

事務局お願いします。

○事務局・鈴木主任

朝霞市民プロモーションミーティングについて、メンバーの募集をこれからするというお話でよろしいでしょうか。資料3のような活動で行っていききたいという事務局から案を出させていただきまして、この場で仮に皆さんからのご意見がありましたら、それを取り入れた上で募集をかけたいと考えております。市民プロモーションミーティングのこれまで2年間の活動を振り返ると、シティ・プロモーションの個々の捉え方というか、活動の内容のイメージが様々というふうに感じておりますので、メンバーとして参加したいと考えていらっしゃる方になるべく具体的な活動の案をお示しした上で募集をかけたいと考えており、このような流れになっております。

○田中委員

ありがとうございます。今の話を踏まえて質問をしたいと思いますが、朝霞市民プロモーションミーティング全体で回数は決まってない認識ですが、我々委員も関われるという認識でよろしいでしょうか。実際どれだけ打ち合わせに参加できるか難しいと思いますが、私個人的には積極的に関わっていきたくと思っています。そうした中で活動案の決定については、プロモーションミーティング委員募集をかけるにあたり、この場である程度議論するのと勝手に想像していました。今後、委員会自体が年間2回ぐらいだと思いますので、次の回で方針を決めて市民プロモーションミーティングを行うという感じになるのでしょうか。

○事務局・鈴木主任

曖昧な表現が多くて分かりづらい点があったかと思いますが、活動の方向性として、今年度はまず一つがわたしのあさか時間というハッシュタグを使ってのSNSでの発信で、個人視点でのプロモーションというステップ1の部分今年度も続けていきたいと考えています。もう一つ、チームとして

1つのテーマに沿って日常の朝霞の魅力を深掘りするという点ですが、例として転居を検討する人へのアプローチですとか、朝霞での一人暮らしを応援する企画ですとか、ペットを飼う人に特化したような朝霞ライフだったり、あるいは武蔵野というものの研究だったり、挙げてはみました。しかしこの場でこのテーマを決めるということではなくて、あくまでもメンバーの皆様を集めてからそこで話し合いたいというふうに考えております。この場で皆様にご議論いただきたいのは、こういった方向性がどうかという点で、概要的なところになってしまうんですけども、ひとまずこの点について議論をいただきたいと考えております。

○田中委員

ありがとうございました。理解できました。

○亀岡会長

ありがとうございます。シティ・プロモーションを通じて何ができるかということが、市民プロモーションミーティングのテーマだと思います。先ほど議論を行いました「わたしの“あさか時間”」に関しても良い冊子はできたけれど、ターゲットとのタッチポイントが少ないという課題を解決していく必要があります。また、資料3のステップ2に記載のある「それぞれの朝霞を語り、発見し、共感し合い、深める」という方向性が事務局から示されているので、参考にしてもらえればと思います。副会長お願いします。

○吉田副会長

この例にある、その前に深掘りしていくというところがあると思いますが、私は例えば転居にしろ、一人暮らしにしろ、ペットにしろ、武蔵野の研究にしろ、絞られている、セグメントされているテーマを探索していただいた方が成果物に破壊力が生まれるということを期待しています。特に一人暮らしというのは若年層と高齢層を両方いっぺんに拾えたりします。真ん中を捉えていくよりもその方がいいのかなと思っています。とにかくセグメントというのは大事なかなという気はしています。以上です。

○亀岡会長

ありがとうございます。副会長のご指摘の通りセグメント、ターゲティング、ポジショニングというSTP理論はマーケティングやプロモーションの基本だと思います。副会長お願いします。

○吉田副会長

冗談なんですけど、「ぼっちの朝霞」みたいにね、そのぐらい表現的に尖ったものが最終的に生まれる可能性をテーマ設定の段階から残しておいた方が有効かなと気がします。

○亀岡会長

ありがとうございます。他の地域と差別化するのは重要なことだと思います。その他意見ありますか。村中委員お願いします。

○村中委員

そういった面白い視点とか、深掘りだとかすごく大好きで、もしかしたらこの委員でまた、ミーティングのメンバーが集まったときにどこまでも面白さを追求した結果、まとまりつかないような時は、委員会とのすり合わせというのは事務局に間に入ってもらい、方向性の修正や見守っていただけるとのことですよね、と、どこまで真に受けていいのだろうかと思っています。例えば、市民がノリノリになってどんどん進めてしまっているのかなという確認をこの場でしておきたいと思っています。いかがでしょうか。

○亀岡会長

事務局をお願いします。

○事務局・西田課長

市民の皆さんの自由なご意見というのはいただきたいところではありますけれども、先ほど村中委員がおっしゃっていただいたように、時には事務局の方で軌道修正させていただいて、あとは委員会の委員の皆様にも、アドバイスなどをメール等でやり取りさせていただきながら進めていければ思っております。

○亀岡会長

ありがとうございます。アイデアは沢山出した方が良いと思います。多くのアイデアの中から朝霞市のシティ・プロモーションにとって一番効果的なコアアイデアへ絞り込んでいくことが重要です。その他どうでしょうか。川竹委員をお願いします。

○川竹委員

時間も残りわずかとなりましたので、私の方から感想も含めてお伝えさせていただければと思います。まず、先週頃この委員会に対して戦略や活動報告というのは事前に受けておまして、全て目を通させていただきました。本当に素晴らしい内容ばかりだなと思っていて、狙いもしっかりあるうえで小冊子が作られていたりですとか、ラベリングとかもされていて、本当に素晴らしいなと思いました。ただ、ここが少し懸念だなと思ったところが、各活動の効果が見づらい状態になっているのではないかなというふうに思っています。一番分かりやすく言えるところだと、定量的にするというところだと思うのですが、できる限りできるものは定量化していけたりすると、その方が施策を回していくには良いと思うので、一個一個どのように効果を見ていこうとされているのかというのは、もし出せるものがあればどんどん出していったほうが良いと思いました。あとは、当初のアンケートの話があったかと思いますが、こちらアンケートの取り方によると思うのですが、2年に1回というのはサイクル長いなというふうに感じました。アンケートの流動を細かくするというのもありますけれども、実際それが役に立っているか、役に立っていないさそうであれば下げるとか、もっと強化していくとかということできると思うので、そういったところが視点として一個あるとより効果的な活動になっていくと思いますので、そこをお伝えできればなと思いました。本当に素晴らしい活動ばかりで、感謝もすごくしております。ありがとうございます。もう一点、先ほどの吉田さんから

いただいたテーマ性のところについては、私もすごく良いと感じておりまして、やはりこういったまちとかというのは似たり寄ったりな部分が多いかなというふうに思っており、効果のところでは基本住みやすいとか、子育てしやすいというところに追求していくと思うので、どうしても類似してしまうところが大きいと思っています。その中で、差別化するポイントをつけるのはどこかというところ、テーマ性を作るというところが重要だなと思ったところです。ブランディングを強化していくというところだと思うのですが、そこを重点的にやっていくことで、これって朝霞市だといいいよねみたいなところが想起できるような状態になるとすごく良いと思ったので、このテーマ性の取り組みもすごく大事だなというふうに思いましたので、お伝えできればと思います。以上になります。

○亀岡会長

ありがとうございます。効果測定のあり方についても、定量的なものや定性的なものがあり、また、その2つを掛け合わせることでインサイトを分析する方法もあります。現在はアンケート期間に関してもバランスがとても悪いと思いますので、新しい効果測定の方法についても自由にアイデアを出していただきたいと思います。副会長お願いします。

○吉田副会長

今の会長のお話を継ぐようですが、さっき会議体が大きく分かれていて、それとは別組織だという話をしました。例えばシティ・プロモーションに関係することで言うと、流入人口と流出人口ってありますが、それを大きい会議体だと足し算引き算でどれだけ残るっていう風にやらざるを得ない。動機に関して、流入に対しては、僕たちはプロモーションで影響力を与えることができるかもしれない。けれど、流出に関しては親族関係が変わったり、相続があったり、進学や転職の関係があったりとか止められない要因がすごく多いと思います。本来非対称的な状況があるのに、そこを同時にエネルギー配分してしまうと、損ではないかっていうところがあって、流出に関してはそう影響力を与えられない。かなりシリアスな問題が絡んでる時が多く、その辺のこともこの会議体ならではのことを発言として響くように持っていきたいと僕は考えています。それと、テーマに関しては最終的に先ほど申し上げたタダ乗り大作戦の時に、「ぼっちの朝霞」とかやればメディアが食いついてきやすいと思います。最終的にその表現がいいかわからないのですが、そういう課題意識をテーマ設定の時から持っていないと、とてもパブリシティに乗っていくということではできないだろうと思います。シティ・プロモーション課の内部とか庁内推進委員会の中ではマーケティング的にはよくSTP、セグメント&ターゲティング&ポジショニングということ、フィリップ・コトラーという方が言っていて、セグメントしてそのターゲットに当てていくというのがあるのですが、僕たちはシティプロの内部とかだと、「シャープン・イメージメソッド」って呼んでいます。イメージを先鋭化させる、研ぎ澄ますということですね。それを最初の段階でやっていないコンテンツに関しては、最初から伸びようがないと、そんなところにメディア費とか印刷費とかかけて投資をしても無駄だということに今到達しています。これに関して、民間でも十分に使えるメソッドだと思うので、とにかく研ぎ澄ま

したコンテンツを作ってから拡散してくっというイメージがすごく大事であると思っています。

○亀岡会長

ありがとうございます。研ぎ澄ますという表現がありましたが、言い方を変えると朝霞のシティ・プロモーションらしくコンテンツを編集する事でもあると思います。一般的な雑誌では編集方針があるように、シティ・プロモーション方針に則って表現していくことが重要です。例えば、シティ・セールス朝霞ブランドの認定を行うだけではなく、ブランディングしていくことがシティ・プロモーション委員会や市民プロモーションミーティングの役割だと思うので、委員の皆さんからご意見を出していただきたいと思います。

以上、本日の議事は終了ですが、事務局から連絡事項ございますでしょうか。

○事務局・竹本課長補佐

本日はどうもありがとうございました。次回の委員会の開催でございますが、令和7年2月頃を予定しております。日時が決定次第、ご案内させていただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。また、先ほど記事の中でご説明しました推進体制について、市民プロモーションミーティングの活動や庁内推進委員会の活動状況などにつきましては、適宜委員の皆様へ報告させていただきたいと考えております。事務局からは以上でございます。

○亀岡会長

ありがとうございます。それでは、他にご意見がなければ以上を持ちまして本日の会議を終了したいと思います。皆様ご協力ありがとうございました。